

2016年5月14日

各位

全国地域人権運動総連合
議長 丹波正史

FAX 03-5615-3396

<http://zjr.sakura.ne.jp/>

「部落差別解消推進法案」まったく不要で、提出すべきでない (ブログ「宮崎信行の国会傍聴記」元日経記者 5月13日付け)

公明新聞 (5/13) によると、部落解放同盟の組坂委員長は「部落差別は社会悪との認識を社会全体に根付かせることが重要だ」と語ったようです。しかし、部落差別の存在そのものを知っている国民は半数以下と考えられ、根付かせる方が社会悪です。例えば、現に東京都庁には「同和」という文字が入った部署はありません。基本的には同和利権復活をめざした立法とみるのが当然です。

『解放新聞』広島県版が“解放の灯”と“主張”で、政権与党・自民党にすり寄っている、解放同盟中央本部に、警鐘を鳴らしている。

(社長ブログ【ゲジゲジ日記】小林健治 3月9日付け)

「自民党の幹部がでてきて、口先で「人権」を説く。そんな「人権派」が、「憲法9条の改悪」となったとき、護憲の立場で採決に臨むであろうか。いくら日頃「仲良しのポーズ」を示しても、いざというとき、この人たちは敵なのである。」(“解放の灯”)

昨冬、解放同盟和歌山県連も参加する人権集会で基調講演した、稲田朋美自民党政調会長(『解放新聞』中央本部版に写真付きで大きく載っている)は、3月3日の記者会見で、「わたしが首相になれば歴史的なチャレンジをしていく」と、「憲法9条2項の改正」に意欲を示している。広島県連の懸念は、現実のものとなっている。

3人トリオ 二階、稲田、漆原 (「紀伊民報 5月11日」)

任期満了に伴う和歌山県御坊市長選が15日告示される。現職で7選を目指す柏木征夫氏、二階俊博・自民党総務会長の長男で新顔の二階俊樹氏が出馬を予定しており、保守分裂の選挙となる。12日夜に開く決起集会には二階総務会長が出席するほか、稲田朋美・自民党政調会長、漆原良夫・公明党中央幹事会会長も駆け付ける予定。